

奥赤石沢

2013年8月10日(土)~12日(月)

メンバー L: 廣瀬(記)、横嶋S

8月10日(晴れ)

数年ぶり、2回目の赤石沢

前回は、初めてということもあり、急いで抜けるのが精一杯で、沢を楽しむ余裕は無かった。

今回は、沢の様子をゆっくり楽しむ事が目的。

ちなみに、横嶋は片岡塾でのトラウマを消し去るのが目的。

入渓点で水量の少なさを感じる。

滝や釜が次々に現れるが、殆ど記憶に残っていない。

ただ、トレースしたルートなだけに早く感じ、あっという間に取水口に到着。

それより上流は水量が増すものの、全く問題無く進める。

以前来た時は、渡渉に気を使うほどだったので、やはり水量は少ないのだろう。

取水口からすぐに北沢の出会いだが、水量の少ない沢が入っており、

「これかな？」と疑問に感じているうちに、扇ノ淵に到着。

右岸から簡単にパスし、すぐに現れる5mチョックストーン滝を越えると門ノ滝に出る。

そこを右岸を高巻くと、すぐに岩穴を抜けとなり、さらに大ガランと続く。

そこを超えると、幕営可能地だが、なんと5組のパーティーが幕営の準備をしていた。

以前幕営した砂利の上は2パーティーが陣取り、入れない。

仕方なく、先に進むと、大ゴルジュ手前、シシボネ沢が見える大岩の影に若干の砂利の台地があった。

周囲も木で覆われていたので落石の心配は少ないだろうと判断し幕営地とした。

08:30 入渓

12:00 取水口

13:00 扇のふち

16:00 大ゴルジュ手前

8月11日(晴れ)

大ゴルジュは、手前右岸のシシボネ沢のルンゼを上がり、トラバース気味に高巻くが、

シシボネ沢の出会いに立派な雪渓が！！【写真1】

シシボネ沢に渡るには、スノーブリッジの下を進む必要がある。

意を決して1人ずつ急いで通過。

高巻きは、シシボネ沢を50mほど登り、斜め上にトラバース気味に行く。

安全を考え10mのお助けロープ2本を繋ぎ交互に進み、低めのラインでトラバース。

およそ2時間で高巻き終了。

そこからは、巨岩のゴロが続き、やがて大釜が現れる。

そこを右岸から高巻くと河原状になり、やがて百間洞の分岐

その後、奥赤石沢に入るが、流木の多い河原歩きとなる。【写真2】

1時間で奥雪渓沢に到着。雪渓が大きく残るが、左岸の雪渓上を通過

その後30分で、扇状の分岐に出て幕営

06:30 大ゴルジュ手前

07:00 大ゴルジュ

09:00 高巻き終了

12:00 百間洞分岐

13:30 扇状地

8月12日(晴れ)

扇状地から、登山靴を履き、真南の沢沿いを進む

湧水のためか所々しか水は流れていない。

階段状になった岩段をひたすら登ると、およそ1時間で、藪漕ぎをする事無く登山道に出た。

そこで、なんと行きのバスの列で、前に並んでいた2人組みのパーティーに遭遇。

荒川を越えて光岳に行く途中だったとの事。

なんという偶然！！ということで話が盛り上がり、九州で購入したという、くまもんプッチョと、素敵なものを頂く。

聖岳の山頂は快晴で、南アルプスの主要な山々を堪能。

聖平小屋から、登山口までは、アップダウンの連続したトラバース道で、予想以上に時間がかかった。

06:20 扇状地

07:10 稜線登山道

08:30 聖山頂

10:20 聖平小屋

13:30 聖岳登山口

2度目の赤石沢だったが、水量が少ないという事もあり、難無く遡行する事ができた。

やはり天下の名渓だけあって素晴らしい沢であった。

しかし、岩登りの場面で、前回よりも手古摺ってしまい、練磨が必要だなと感じた。

K様、折角頂いたものですが、時間が間に合わず使う事が出来ませんでした。

思い出に必要でしたら、浜松勤労者山岳会にメール下さい。

返送させていただきます。



【写真1 シシボネ沢の雪渓】



【写真2 河原状の奥赤石沢】

以上